

『さいごの果実』

私は、いつも探してばかりだ。

たぶん、私だけじゃなくみんなそうだ。
理由を、原因を、仕組みを、真実を。
いつもいつも、知りたくて、探している。

それを知ろうとすることは、楽じゃなくて、むしろしんどいことであって、だからもうそんなもの忘れてしまいたいと思うこともある。でも、「知りたい」という願望からは一生逃れられないことはわかっている。

それに、いつか見つけることができるとは、実はあまり思っていなかったりもする。見つけたつもりが、またすぐ見失う。何度も繰り返すことになる。そんな終わらない追いかけてに一生つきあう覚悟は、なんとなくある。

ヒントはあちこちに落ちていて、集めながら答えに近づいていく。でも、いつも優しい手触りのものばかりじゃない。いっぱい怪我をして、くじけそうになるんで、いちいち疲れる。少しふてくされてから、また追いかける。

それでも知りたい、愛するって、生きてくって、結局どんなこと？
どこまでいっても永遠にひとりぼっちだとわかってるのに、誰かのそばにいたいと思う気持ちは
いったい何なの？
いつまでも変わらない永遠と、変わり続ける一瞬って、どこが違うの？

その答えが、もしも私の望んだかたちのものと違って、受け止めるつもりで聞いてみる。
心の底から「教えて」とつぶやくとき、世界が何も言わずにただうなずくような感覚が、ある。

* maaya *